

機械開発北旺 株式会社

戦後北海道の国土開発に貢献



会社設立60周年を迎え、
新たな気持ちで社会に貢献

機械開発北旺株式会社は1957（昭和32）年2月、当時はまだ人力中心であった土木建設工事の機械化を図り、戦後北海道の国土開発を推進することを目的として、北海道開発公庫（現日本政策投資銀行）、大手重機メーカーおよび道内主要建設会社等の共同出資によって、北海道機械開発株式会社という社名で設立されました。

設立当初は、建設会社に対し大型建設重機をオペレーター付きで賃貸する業務が中心でしたが、徐々に公共工事の一次請負にも参入するようになりました。現在では、受注工事の9割が国、北海道および札幌市等の管内市町村からの公共工事ですが、なかでも港湾建設工事において多くの実績をあげてきており、2008（平成20）年には同業の北旺建設株式会社を吸収合併して、現在の社名に変更した経緯にあります。

当社は2017（平成29）年2月、人間でいえば還暦にあたる設立60周年を迎え



機械開発北旺 株式会社

〒065-0043

北海道札幌市東区苗穂町10丁目1番15号
TEL◆011-721-4321

FAX◆011-721-8068

■設立／1957(昭和32)年

■代表者／代表取締役社長 百瀬 治

■資本金／1億4,000万円

■売上高／22億円(2016年度実績)

■従業員数／47名

■支店／苫小牧、石狩

■営業所／函館、釧路、旭川

えることが出来ましたが、北海道の社会資本の充実を担う建設業者としての役割は、今後さらにその重要性を増してゆくものと考えます。

当社は「技術力を研磨し社会に貢献」「住みよい生活環境の創造」「自然と共生する社会の実現」そして「社員への多様な自己実現の場の提供」を経営理念として、時代の変化や社会の要請に的確に対処し、つねに新たな気持ちで役職員の力を結集し、北の大地の建設に貢献できることを願っています。

事業概要

Business Outline

公共土木建設工事等の請負

国 道・札幌市等の発注工事に関して、入札資格を有し、空港、港湾、漁港、道路、上下水道など広範囲の種類の仕事を請け負っています。特に、高い技術と経験がなければ携わることが難しい、港湾・空港の仕事を複数受注しており、北海道のインフラ整備で力を発揮しています。これからも北海道を創造する仕事を私たちに形にしていきます。

国道などの維持管理及び除雪、排雪

国 道の通年維持管理に加え、北國ならではの除雪及び排雪業務も請負っています。地域の様々な声に真摯に向き合い、そのエリアを熟知し経験を積むことで、長年公道の維持管理業務を継続してきました。国からの官舗車を含め、貴重な重機を管理、メンテナンスし、365日/24時間体制で道民の生活を支えています。

所有不動産の賃貸事業等

事 業多角化の一つとして、設立50年の節目の年から、弊社で所有する不動産を活用した賃貸業務を行なっています。これまででも苫小牧の大型ショッピングセンターの土地・建物や札幌市内の私立高校校舎、会社事務所および専用駐車場としての賃貸事業を行っており、今後も弊社の重要な経営基盤として、積極的な事業展開を図って行きます。

社会貢献活動

Social Contribution



移動採血車ひまわり号への献血協力

当 社では、毎年4月の健診時に、北海道赤十字血液センターから献血車に来てもらい、多くの役職員有志が献血に協力しています。お隣の同業杉原建設の皆さんや本社屋に入居しているリーフラス社の若いスポーツ指導者諸君も快く献血に参加してもらっています。



道路清掃ボランティア

当 社は、毎年、約30名以上上の社員が当社石狩支店に集まり、石狩湾新港周辺の道路約5キロの清掃ボランティア活動を行っています。今後も、このような活動を通して、地域に少しでもお役に立てるよう、継続していくつもりです。



地域連携

当 社では、冬道での転倒防止に役立てて貰おうとJR苗穂駅前に「歩行者用砂箱」を2基寄贈し、シーズン中の点検・管理を10年来継続しています。また、北海道犯罪の無い安全で安心な地域づくり推進会議(会長:高橋はるみ知事)の「子どもを見守る運動」に参加するとともに「札幌市地域安全サポートーズ」にも参加して活動しています。



災害義捐金・社会福祉基金等への寄付

平 成28年8月に発生した4つの台風・水害により大きな被害を受けられた方々への義捐金として、30万円を寄付させていただきました。また、平成29年2月には会社設立60周年を迎えることから、道新社会福祉振興基金を通じて、道内の福祉のために別途30万円を寄付させていただきました。



HKKヒストリー

History

機械開発北旺は、北海道の歴史とともに歩んできました。

1957(昭和32年)

北海道機械開発株式会社(HKK)として、資本金1億円で設立(昭和32年2月27日)
建設業者登録(北海道知事許可)
雁木整備事務所、整備工場、独身寮落成
機械賃貸工事受注、施工開始(札幌鉄道病院基礎掘削工事)
土木工事受注、施工開始(石狩川改修工事一連工事)

1961(昭和36年)

4,000万円増資実行(増資後資本金1億4,000万円)
苫小牧工事事務所開設

1962(昭和37年)

本社事務所を富山会館へ移転

1966(昭和41年)

本社事務所を北海道建設会館へ移転

1969(昭和44年)

旭川出張所開設

1972(昭和47年)

釧路出張所、函館事業所、石狩出張所開設
新千歳空港工事開始
大麻共同住宅、独身寮落成



Interview
01 目標は所長。
現場の安全を守れる人になりたい。

工事部 工事課 武田 昌己 室蘭工業大学卒業

がこの会社に入った一番の理由は「北海道で仕事をしたい」という想いでした。学生の頃から土木の勉強をし、物をつくる仕事にあこがれて入社したのですが、大学で勉強したことだけでは現場で出来る作業も限られており、入社したばかりの頃は、先輩方に助けてもらながにがら、ついていくのがやっとの状態でした。現場での経験を重ね、自分の仕事の幅を広げるために資格の取得をした今、ようやく責任を任せてももらえるところまで成長することができました。これまで、高速道路(士別剣淵インターチェンジ)の開通工事を担当したほか、橋を架ける仕事や、母校のある室蘭の防波堤工事を担当するなど、北海道内いろいろな場所へ行き、地図にないものをつくる仕事に携わっ

てきました。このような工事に参加できるのも今の会社だからこそ、と感じています。今は丘珠空港での業務実績を持つ先輩と一緒に、新千歳空港での業務を担当しています。まだまだ成長途中で、力不足を反省する場面もありますが「空港の工事という、限られた人しか体験できない仕事を、今、自分が担当している」という事にやりがいを感じるとともに、自分を認めてくれた会社のためにも、毎日気を引き締めて仕事に取り組んでいます。



現場では予定外の出来事が起こることもありますが、そんな中でも周りとのコミュニケーションを大切にし、仕事のやり方を常に実践しながら伝えてくれる先輩がいることで、いつも安心感をもらっています。同時に、自分も周りに頼られ、安心感を与える存在でいたいと感じようになりました。

この先、いつか自分も所長の職につき、この良い伝統を、後輩へも引き継いでいきたいと思っています。

学生へのメッセージ



「安全に終わらせる事が当然」先輩から叩き込まれた言葉です。現場では時に、自分よりも年上の人へ指示を出さなければいけないことがあります。どんな天候に襲われても、工期は守らなければいけません。どんなに頑張っていても、ハードなスケジュールになってしまったり、仕事がつらくなってしまうこともあります。ですが、自分を見失わずしっかり対応していけば、必ず結果はついてきます。良い工事には、一年間に数社のみではあります、国から認められ表彰される事もあります。私も国からの表彰を受けた時にはとても感動したのを覚えています!国からの表彰は、公共工事を請け負う当社だからこそこの経験だと感じています。北海道が好き、ものをつくることが好き、という方にぜひ入社していただき、いつか一緒に国に認められる仕事をして、北海道の地図に残る仕事を共有できればと思っています。

北海道の開拓や、道の整備など、多くの人々が手を貸してきました。その歴史と文化が、この地域を特徴づけているのです。



Interview
02 感謝する気持ち
それが私の原動力。

工事部 維持課 歌住 雅秀 北海道工業大学 卒業 (現 北海道科学大学)

は現在、皆さん毎日使用している道路(現在は国道を担当)を維持管理する仕事をしています。普段は道路のパトロールを行い、道路上に異常がないかを確認するほか、風などによって道路上に飛ばされてしまったゴミなどの清掃を行なっているのですが、どのような場合でも迅速に行動し、安全に使用できる道路を守るため、24時間365日監視できる体制で対応しています。そのため、夜中や早朝でも道路に異常があった場合には駆けつけなければならず、この仕事についたばかりの時は、早起きが苦勞の一つだったことを覚えています。最近では異常気象も多く、強風で街路樹が倒れたり、視界不良による事

故なども多くなっていますことから、出勤回数も増えてきています。



でも、そういった中で「いつもありがとうございます」と優しく声をかけて頂くこともあります。自分たちは人々の役に立つ仕事をしていると改めて感じるとともに、次の仕事への活力をもらっています。

道路は様々な人が行き交い、そこでは様々な考え方や感情も行き交っています。時には厳しい言葉を頂くこともあります。この仕事は道路沿いに住む住民の皆さん、道路を使用しているドライバー、そして一緒に道路の維持管理をする仲間の協力があって、はじめて形になる仕事です。「一人ではなにもできない」と痛感する事も多いですが、人とのつながりの中で、様々な情報をいただき、感謝の中から新たな人とつながりが生まれます。だからこそ私は「何に対しても感謝する気持ちを持って仕事をしていきたい」そう思っています。



学生へのメッセージ

私の場合、ゼミの先生からのお薦めで入社試験を受けたこともあり、最初のうちは「重機に乗って現場に出るのかな?」など間違えた想像もしていました。

入社後は右も左もわからない状況でしたが、先輩の的確なアドバイスやコミュニケーションの中から、個人としての自分の役割や仕事への向き合い方を学ばせてもらったほか、会社として、集団として何をするべきなのかを、常に教えていただき、今の自分がいます。

私たち現場を管理し、安全に作業を進めるための仕事を主に担当します。目標達成が必ず必要な現場ということもあります。大変なこともあります。どんな時でも経験豊富な先輩が側にいてサポートをしてくれます。仕事以外でも相談に乗ってくれる仲間もいます。個性を認め、その思いを形にするサポートをしてくれる環境ですので、学生のみなさんも安心して入社してほしいと思っています。